



病院理念

私たちは、利用して下さる方
ひとりひとりのために
最善を尽くすことに誇りをもつ

聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院 企画・発行

目次<contents>

- 道標 / 大車輪おじいちゃん〜野末 実さん〜
- 足をのばせば / はままつフルーツパーク
- 方位磁針 / 地域がん診療連携拠点病院
- 交差点 / ようこそ、ホスピタルパークへ
- みちくさ ① / 浜松科学館 [プラネタリウム]
- みちくさ ② / お好み焼き・もんじゃ「こころ」
- 出会い / 中山耕作先生の思いで



すごい!
このおじいちゃんは
一体!?



聖隷浜松病院 院長 堺 常雄

前院長の中山耕作先生が4月4日早朝に亡くなられてから半年以上が過ぎました。イースターを終えたばかりの東京神田駿河台のニコライ堂で、4月9日に通夜、10日に埋葬式が営まれ、7月8日には東京でお別れの会が開かれ、あっという間の数ヶ月でした。

先生が創設間もない聖隷浜松病院の院長として赴任されたのは、1963年8月、38歳の時でした。それまでは聖隷病院として聖隷三方原病院との兼任の管理体制でしたから、中山先生が当院の初代院長ということになります。その当時の先生がお書きになった文章を読みますと、病院管理の経験も無く、病院の将来もはっきりしない状況の中で、大変なご苦労をなさったようです。それでも、職員の先頭に立ち、病院の存在理由は何かを考え、日夜努力を続けられました。以来33年間院長の職にあり、地域医療のためにご尽力いただき、その後は総長としてまた日本病院会会長として、全国レベルで病院医療がどうあるべきか考えてこられました。

中山耕作 先生の 思いで。

私が最初に聖隷三方原病院に就職したのが1981年ですから、その頃、中山先生はまだ56歳だったわけです。それでも、すでに雲の上の人で、とても近寄りたいたい存在でした。しかし、聖隷浜松病院に移った1992年からは、意外に気さくで何でもお話しできるようになりました。

それ以後、徐々に先生らしさが分かるようになりました。まず、大変な負けず嫌いでした。新しいことがお好きで、何でも1番になることを心掛けておられました。そのための努力は惜しみなくされたようです。本来的に、お話しは嫌いではなかったようですが、なかなか御自分の本心をお出しにならないので、こちらはかえって、先生はお話しが嫌いなのではと思うことが多々ありました。これは後で分かったことなのですが、先生は決して最初からノーとはおっしゃらずに、相手の考えをじっくり聴くようにされていたのです。ノーというのはいつでも言えるが、最初からノーと言ってしまえばチャンスをつぶしてしまうことになるので良くないというお考えだったのです。

たばこが本当にお好きで、かなり最後の時期まで吸っておられました。「これは中国のたばこで、特別な葉草が入っているから健康によい」というのが、お得意のジョークでした。病院全敷地内が禁煙になり、一番困ったのが先生だったのではないのでしょうか。

それから、患者になる名人でした。どこか具合の悪いところがあると、すぐに関係する診療科にかかり、検査なども一般の患者さんの中にとけ込んで、外から見ても院長とか総長とかいう感じは全くありませんでした。当院の診療レベル、職員を心から信頼されておられたのです。

色々な場面で、聖隷浜松病院の風土はどうやってできたのかと尋ねられることがあります。このような時には、聖隷精神とか、やらまいか精神とか言うのですが、実際には、中山先生を中心として、聖隷浜松病院の創設期からの先輩たちが努力して築いてこられたものと確信しています。私たちは、これを次の世代に継承していかなければなりません。

それにしても82歳で先立たれた先生は、あまりにもせっかちで先を急がれたと悔やまれます。先生の御魂が安らかであることをお祈り申し上げます。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団  総合病院 聖隷浜松病院 [財団法人 日本医療機能評価機構認定病院] [地域医療支援病院]

〒430-8558 浜松市中区住吉2-12-12 TEL.053-474-2222(代) FAX.053-471-6050

ホームページアドレス <http://www.seirei.or.jp/hamamatsu>

てくてく第23号:制作・編集/聖隷浜松病院広報委員会 発行者/堺 常雄 発行日/平成 19年12月1日